

『働くということを考える』

小城市立三日月小学校 6年 吉田 佳央

「仕事とは、自分が収入を得るためのものだけど、人に与え人の役に立つものでもあるんだよ。」

社会を明るくするための取り組みを考えたときに、この父の言葉を思い出しました。

私の父は高校で先生をしています。授業やクラスの担任をして忙しいのかと思っていたのですが、今はクラス担任をせずに、進路指導を任されているのだと教えてくれました。進路指導とは、生徒が大学や短大、専門学校に進むために、一人ひとりに合ったアドバイスをすることだそうです。そのために、将来の仕事を見据えた学校選びを、自分自身で考えさせているのだと聞きました。でも、最近のニュースでは、大雨や地震などの自然災害の情報と同じくらい、無職の人による犯罪が増えているように感じます。無職の人の中には、働きたくても働けない人もいますが、詐欺や転売といった自分勝手なことをしてお金を稼ぐ人もいます。これは決して仕事とはいえません。父が言った「人の役に立つ」ことで満足いく生活ができるようになり、人を幸せにすることが本当の働く意味なんだと思います。

現在、新型コロナウイルスが世界中で大流行しており、半年近くも不便な生活が続いています。手洗い、うがい、消毒、そしてマスクが欠かせないだけでなく、外出するのでさえ我慢しなければいけなくなりました。でも、そういう生活を続けていくうちに、家庭学習をする時間が自然と増えたり、家族と一緒に料理をするようになったり、弟と遊ぶ機会が増えたりするなど、工夫して

新しい生活を楽しめるようになりました。私の通っている塾では、オンライン授業が導入されるようになり、コンピューターの便利さを改めて感じました。これからはコンピューターを使って、もっと新しい技術や新しい工夫、新しい仕事が生まれてくると思います。

私は今、夢を叶えるために一生懸命勉強しています。将来は、たくさんの知識を得て、体のことや病気のことを研究し、人々の健康を守る医師になりたいと考えています。その目標があるから、学校の勉強だけでなく、難しい塾の勉強にも真剣に取り組むことができます。

私が考える明るい社会は、みんなが笑顔で助け合いながら生活していることです。そのためには、みんなそれぞれしっかりと働いて、おたがいが感謝しあうことが必要です。「人の役に立つ仕事」「これからの生活に合う新しい仕事」を見つけ、「夢を持ち、夢に向かって努力すること」で、それらは実現できるのではないかと考えました。大人の人だけでなく、子どもたちにも仕事について考える機会をたくさん作って欲しいと思います。勉強へのやる気も上がり私たちが大人になったときには優しい社会を築いていけると思います。

将来は、夢を叶えるだけでなく、人に優しい町づくりに貢献したいです。